

安曇野ちひろ美術館
美術館だより

No.88

2016.9.16



愛書総覧 ちひろの本棚

●2016年10月1日(土)～11月30日(水)

本棚はその人を映す鏡ともいえます。ちひろ美術館・東京には、ちひろのアトリエが移築され、再現されています。画机の後ろにある本棚には、童話集や美術全集、文芸書、図鑑など、ちひろの仕事や趣向をうかがわせる蔵書が当時のまま並んでいます。本展では、本を手がかりに、ちひろの創作の源泉をさぐります。

宮沢賢治の文学

20代の若い時代に戦争を体験したちひろは、日本が戦争へと進むなか宮沢賢治の童話や詩に出会い、その作品世界と思想に心惹かれました。終戦直後に書いた26歳のときの日記には、賢治の名前や詩の一節などが度々登場し、後に、この時期の賢治への心境を「命のように大切だった」と語っています。当時読んでいた本は残っていませんが、戦前に出版された『宮沢賢治名作選』（1935年刊）である可能性が高いと考えられます。本の冒頭に記された「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という賢治のことは、「世界中のこどもみんなに平和としあわせを」と願い続

けたちひろの生き方にも重なります。

人生を模索する若き日を支えた賢治への思いは、20年以上の時を経て、『花の童話集』（図1）として結実しました。自然と対話する賢治のまなざしに自らのまなざしを重ねながら、草花や木などを題材にした6編の童話を描き出しています。

アンデルセンの童話

日本で相次いで童話集や児童文学全集が出版された1950年代から1960年代にかけて、ちひろも「小公女」（図2）や「アルプスの少女」など、世界の童話を数多く手がけました。本棚には60冊を超える童話集が並んでいます。

そのなかでも、「百年もの年代の差をこえて、わたしの心に、かわらないうつくしさをなげかけてくれる」と語り、最も愛したのが、アンデルセンの童話でした。蔵書のなかには、「絵のない絵本」の文庫本が数冊残されています。貧しい絵描きの青年に、月が夜毎、世界中で見たことを語る物語を、童話集や紙芝居に描いています。1966年には、人生の哀歓を美しく紡いだこの物語を、自らの強い希望で絵本

化しました。鉛筆と墨のモノトーンで情感豊かに描き出したこの絵本（図3）は、若い世代を対象とした「若い人の絵本」シリーズの第一弾となり、以後ちひろは、娘時代からの愛読書の『たけくらべ』（図4・樋口一葉著）や『万葉集』の絵本化へと意欲的に取り組んでいきます。

『風姿花伝』

晩年、ちひろは、世阿弥の能芸論書『風姿花伝』を愛読するなど、日本の芸術思想に深い関心を寄せていました。「秘すれば花なり、秘せざれば花なるべからず」の一節を、優れた技術を持った役者の抑えた表現にこそ、深い情趣が現われるととらえ、説明的な要素を排して、見る人の想像力を喚起する表現を追求していきます。

「緑の風のなかで」（図5）は、亡くなる前年の1973年に制作されました。風景や表情は描かれていませんが、淡い水彩で表現された風や少女の手の仕草は、見る人に、日差しの暖かさや風の音、少女の心情までも感じさせます。日本の伝統的な芸術観は、後期の表現を支える根幹となっていたことがわかります。（宍倉恵美子）

●展示室4

〈企画展〉没後10年「長新太の脳内地図」展

●2016年10月1日(土)～11月30日(水)

協力：あかね書房、絵本館、偕成社、教育画劇、クレヨンハウス、佼成出版社、講談社、こぐま社、小学館、童心社、徳間書店、BL出版、ビリケン出版、福音館書店、復刊ドットコム、文芸堂、文研出版、ポプラ社、理論社
後援：絵本学会、こどもの本WAVE、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会
企画協力：刈谷市美術館、横須賀美術館

長新太は1949年のデビュー以来、2005年に亡くなるまで、漫画家、イラストレーター、エッセイスト、絵本画家として多彩な活躍をしました。なかでも先鋭的なナンセンス絵本で日本の絵本に大きな足跡を遺しています。本展では、長の全画業を俯瞰し、その特異な発想の源を探ります。「イマジネーション」と「センスとナンセンス」の2部構成で、互いに重なり合う10のテーマから迷宮のように広がる長の脳内にご案内します。

【イマジネーション】

たっぷりした筆致と豊かな色彩で伸びやかに描かれた広大な空間、擬音語を取り入れたことばによる荒唐無稽な物語……。生理的な快さを喚起させる長の絵本には、おもしろさを貪欲に求め、身体全体で快さを味わう子どもの感覚が備わっているかのようです。「イカ・タコ」、「巨大な……」、「ライオン」、「変身」の4つのテーマからその発想を探ります。

巨大な……

ネコが乗れるほど大きなクレヨン(図

1)、山を包み込む編み物、ブタを追いかける巨大な芋虫……。 「一番の根本に巨大願望というか、巨大なものがかきたいというのがある」と語った長。何の前触れもなく、とてつもなく大きなものが現れると、心は現実世界から解放され、理屈を超えたおかしさが生まれます。

ライオン

長が繰り返し描いたモチーフのひとつがライオンです。1970年に子ども向けの雑誌に掲載された「ちびひげらいおん」は、以後30年以上にわたり長が描き続けたライオンの原点といえるでしょう。子どもたちに親しまれ、飄々とユーモアを体現するライオンのイメージに、長自身の姿が重なります。(図2)

【センスとナンセンス】

「ナンセンスだからといって、ひとりよがりじゃいけない」と語った長は、着想を描きとめたラフの段階から、複数のダミー本を経て、余分なものをそぎ落として、絵本のかたちに仕上げられています。「長新太の絵本づくり」、「漫画一線の表

現」、「ナンセンス」、「快と怪」、「ちへいせんのみえるところ」、「記憶」の6つのテーマから作品の背後にある長の透徹した視点と生理的快さを追求する感覚に迫ります。

ちへいせんのみえるところ

長の絵本には、どこまでも地平線が続く大平原や、水平線を見渡せる水辺が舞台となっているものが多くあります。動物が猛々しく駆け抜けたかと思うと、不安になるほどの静寂に包まれるなど、次々と起こる奇想天外なできごとを受け入れる自由な空間は長独自のナンセンス絵本の原風景といえるでしょう。(図3)

快と怪

長は「はくの理念である“生理的に心地よいものは全部大好き”という形で言えば、不真面目な部分だって当然出てくるんじゃない?」と語っています。五感を触発する絵本で子どもたちと生理的な快さを共有するとともに(図4)、生きることそのものの快さを見失いかけた大人の堅い頭をゆさぶります。(原島 恵)



図1 ひなげし『花の童話集』(童心社)より 1969年



図5 緑の風のなかで 1973年



図2 雨のなかおつかいにくセーラ 『幼年世界文学全集22 小公女・トムソーヤの冒険』(偕成社)より 1965年

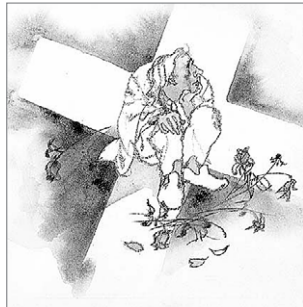


図3 墓地に腰をおろす道化 『絵のない絵本』(童心社)より 1966年



図4 美登利 『たけくらべ』(童心社)より 1971年

没後10年 「長新太の脳内地図」展

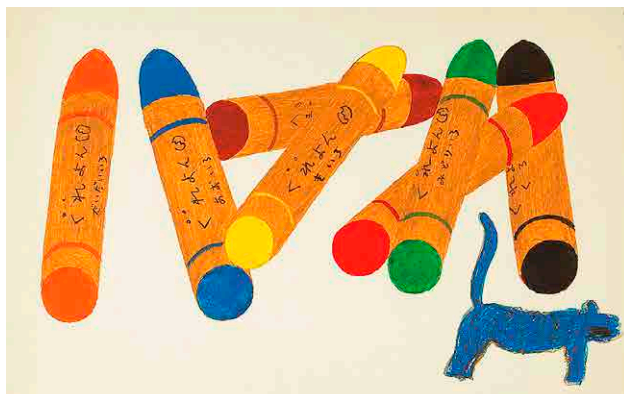


図1 『ぼくのくれよん』(新進/銀河社/講談社)より 1973年



図2 『ゆうちゃんとへんてこライオン』(小学館)より 1995年



図3 『ちへいせんのみえるところ』(エイプリルミュージック/ピリケン出版)より 1978年



図4 『あかいはなとしろいはな』(教育画劇)より 1996年

2016年5月25日～29日 AFCC(シンガポール)

後援：日本国際児童図書評議会、日本図書館協会、全国学校図書館協議会、日本書籍出版協会、NPOブックスタート、絵本学会、SCBW | Japan
協賛：キヤノン 女子美術大学 マンダム 資生堂 フマキラー ユニチャーム コーセーコスメポート ライオン 中央物産
協力：いわむらかずお絵本の丘美術館 日本絵本ミュージアムネットワーク 板橋区立美術館

アジア児童コンテンツフェスティバル (Asian Festival of Children's Content 略称 AFCC、主催：シンガポール国立図書開発評議会) は、アジアからの良質な子どものためのコンテンツの発信、普及とその発展・充実を目的に、関わるさまざまな分野の人をつなぎ、シンガポールで2010年以来毎年開催されている催しです。世界各国から講師が集まり幅広いテーマでセッションを行うほか、専門家を対象とした集中講義や、子どもを対象とした無料プログラムも開催され、会場である国立図書館の1階の広場では、各国の団体からブースも出展されます。

今年はシンガポール・日本外交関係樹立50周年を記念して、日本がフォーカス国に選ばれました。国立国会図書館国際子ども図書館をカントリーパートナーに、日本児童図書出版協会、学校図書館協議会から日本の子どもの文化の各団体がサポーティング・パートナーとして後援、企業各社の協賛も受けて、5月25日から29日の間開催、各分野から日本の優れた子どものためのコンテンツを紹介するとともに、各国参加者との交流も深められました。当館は、日本準備委員会として一年間の準備を進め、本大会を迎えました。

記念展示「日本の絵本のあゆみ—絵因果経から『14ひきのあざごはん』まで」

国立図書館7階では、当館所蔵の作品や資料のレプリカに、いわむらかずお絵本の丘美術館から特別出展された複製画をあわせ、日本の絵本の歴史を8世紀の絵巻物から江戸時代の版本、大正から昭和初期の絵雑誌、戦後の代表的な絵本画家の作品で紹介する展示を、国際交流基金や資生堂文化財団の助成を受けて、5月24日から7月10日まで開催しました。多くの人たちが来場し、日本の絵本文化に触れて興味深く鑑賞していました。



多彩な講師陣によるセッション

日本から参加した20人の講師陣がシンガポールに集まりました。翻訳家のさくまゆみこさんは、日本の子どもの本の現在と未来についてのメイン講義を行い、国際子ども図書館の活動を館長の本吉理彦さんが紹介、絵本画家のいわむらかずおさんは自作について語りました。紙芝居文化の会の酒井京子さんは実演も交えて紙芝居の魅力を伝え、絵本作家の児島なおみさんは日本の絵本にみる子どもの世界を、音楽家の新沢としひこさんと

山野さと子さんは、楽しい歌声で子どもから大人まで観客を魅了しました。当館からは、竹迫が展示に関連して日本の絵本の歴史について、松方は、ちひろとトットちゃんについて発表しました。

日本ブースでは、日本の出版各社から寄贈された絵本等約200冊の展示と自由閲覧や、子どもの文化・本関連の各団体の紹介をパネルで行いました。若手漫画研究家の山本美希さんによる手作り漫画のワークショップも開催しました。



本大会を機に、シンガポールと日本の作家、画家、翻訳者が協働して2冊のバイリンガル絵本が刊行されましたが、その一冊『テーブルがおかのモンスターの日』は、児童文学者の末吉暁子さんの遺作となりました。“伸び行くアジアの子どもの文化を学びあい、できることがあるならサポートしたい”。末吉さんの思いは、AFCCに参加し関わるすべての人たちの思いを形にしたものとなりました。(松方路子)

2016年7月24日 松川村・安曇野ちひろ公園 オープニングイベント「トットちゃんの夏祭り」

安曇野ちひろ公園・トットちゃん広場(松川村営)が、7月23日にオープン。翌日に行われたオープニングイベント「トットちゃんの夏祭り」の様子をご紹介します。

笑顔があふれたトットちゃんの夏祭り

アイスクャンディにボン菓子、トットちゃんが大好きだったちんどん屋さんも登場し、大いに盛り上がった夏祭り。ステージでは地元松川村の響岳太鼓や吹奏楽、安曇節などの公演が行われ、ちひろ公園サポート隊がこの日のために腕をふるった赤飯やそばの“おふるまい”もありました。また、電車の教室で配布したオープニング記念の乗車券は、子どもたちはもちろん、大人にも大人気。電車の教室を見学した子どもたちからは「こんな学校に通ってみたい！」と歓声が上がっていました。



ちんどん屋さんに興味しんしんの子どもたち

トモエの講堂では『窓ぎわのトットちゃん』の読み聞かせやピアノ王子こと大友剛氏による「トットちゃんと楽しむ絵本と音楽の世界」のステージも。子どもたちの歌声と笑顔が講堂いっぱいに広がりました。



大友剛氏によるステージでは音楽に合わせて子どもたちが大合唱する場面も

公園内では、『窓ぎわのトットちゃん』に描かれたエピソードをめぐるオリエンテーリングに挑戦する子や、電車の図書室で絵本を一生懸命に読む子など、思い思いに楽しむ子どもたちの姿が見られました。

■安曇野ちひろ公園今後のスケジュール■

農業体験ゾーンでは、旬の野菜の収穫や、郷土食の調理体験を実施。トットちゃん広場では、9月から11月までの毎週日曜に、松川村で活動する「朗読の会 織音」による読みきかせ会を行います。ま

た、9月24日の「トットちゃんの運動会」では、物語に出てくる「お母さん探し競争」や「鯉のぼり競争」のようなユニークな競技を予定しています。もちろん、競技の商品はお野菜です。さらに10月9日は、トットちゃん広場での思い出を絵手紙やタペストリーにして楽しむ「秋の手作りパーティー」。10月22日は、松川村の畑の先生や自然の先生たちと楽しむ「安曇野ちひろ公園収穫祭」。11月27日には、トットちゃんも好きだった落語をみんなで楽しむ「電車寄席」を2016年のクロージングイベントとして開催します。『窓ぎわのトットちゃん』に描かれた世界を体験できるイベントが目白押しの秋の安曇野ちひろ公園へぜひ、お運びください。(宮木慧美)



トットちゃん広場の思い出を絵手紙に残したワークショップ

ちひろを 訪ねる旅③

1950~60年代
うたごえ喫茶・
新宿ともしび



ちひろの歌集

アルトの穏やかな声だったといういわさきちひろ。歌うことも好きで、若い頃は妹や従姉妹たちとフォスターの歌やフレッド・アステアの映画音楽、ジャズなどを楽しげに歌っていました。家庭を持ってからは、家に集う画家仲間や夫の同僚たちと歌声を響かせ、また、幼い一人息子は母が歌うモーツァルトやシューベルトの、そして、五木の子守唄の心地よい調べを覚えています。ちひろの遺品には、アステアの映画音楽やロシア民謡のレコードとともに、素朴な装丁の「青春歌集」やピアノ伴奏付の「人民合唱集」がありました。

西武新宿駅を出て歌舞伎町に入り、新宿コマ劇場（現、TOHO

シネマズ新宿）北の一角にあったうたごえ喫茶・ともしび。うたごえ喫茶というのは、店の人の伴奏やリードで、店内の客がみなで声を合わせて歌い楽しむ喫茶店です。ちひろが、ともしびに出かけていたのは、1950年代後半から60年代に掛けて、童心社の若い人の絵本シリーズや至光社の新しい絵本の仕事が始まり、格段に忙しさが増す少し前の頃と思われる。

ともしびの誕生は1954年。「月刊ともしび」によると、「開店当時は、戦後10年余が経っており、戦後民主主義の高揚、朝鮮戦争（'50）、サンフランシスコ講和条約締結（'51）に続く時代です。第1回原水爆禁止世界大会（'55）が開かれ、同

年砂川基地反対闘争が闘われ、日本は国連に加盟（'56）し、「安保改定阻止国民会議が結成（'59）され、三池闘争が始まり、水俣病問題が起き、南ベトナム民族解放戦線が結成（'60）されました。」

戦争のない、誰もが幸せに暮らせる社会を創ろうという機運の高まる時代。ともしびには、過酷な仕事や闘いの疲れを癒し、明日への活力を求めて、詩人、作家、画家、演劇人も含め、多くの人々が集いました。同時期、都内には20軒を超えるうたごえ喫茶があったといえます。日頃は物静かなちひろが、時代の息吹の中、うたごえ喫茶の一角で、熱く楽しげに歌う姿が想像されます。（竹迫祐子）

ひとこと ふたこと みこと

7月29日（金）☁

今日はちひろボランティアのレポートを友だちと2人で書きにきました！本番ではしっかりとガイドボランティアができればいいなって思っています。（松川中2年女子）

8月11日（木）☀

神奈川から来ました。子どものころに黒柳徹子さんの朗読劇「窓ぎわのトットちゃん」を観に行きました。30年以上経った今でもあの口調、音楽、場の笑い声を思い出せます。今日は夫、子ども3人の5人で来館しました。ワークショップやオリエンテーリングなど子どもたちにも魅力的な催しの数々。暑かったけど楽しかったです。でも次は涼しくなってからかな…？

8月12日（金）☀

あそんだり、スイーツを食べてピ

クニック気分になれたりとても楽しかったです。広場も芝生だからころんでもいたくなくて、子どもが遊ぶにはとてもさいてきな場所でした。電車の教室の近くの休けいじも、木と新しいかおりで、とてもいごちが良かったです。あずみのちひろ公園サイコー！（ゆうな10歳）

8月13日（土）☀

わたしは、黒柳徹子さんのお話やトットてれびもみて、おもしろかったのも、もし、ゆめがかんうなら、会っていっぱいお話をきいてみたいです。（みく 4年生）

8月14日（日）☀

保育園勤務です。ちひろさんの絵と、トットちゃんを「いい子だよ」と包んだトモ工学園の世界にいると、「これだよ！今必要なのは、み

んなそのままで、いい子なんだよ」という思いです。（静岡より S）

8月15日（月）☁/☔

展示室にある音楽物語「窓ぎわのトットちゃん」を聴きました。目だけでなく耳でも作品を楽しめるのは、とても素晴らしいと思いました。（高1）

8月16日（火）☀

私は高校生ですが、トットちゃんを読んだのは小学生以来でした。やさしいことばの中に、大切な何かがたくさんつまっているような気がして、ぐっときました。何だか小学生に戻りたくなくなりました。絵からは少し遠ざかっていましたが、久しぶりにスケッチブックでも開いてみようかな。やさしい雰囲気の話が私にも描けるといいなと思いました。（ちさと）



美術館 日記

7月30日（土）☀

松川中学生のボランティアによる活動がスタート。美術館のガイドツアーでは、強い日差しのもと、額に汗を流しながら、トットちゃん広場の案内サインをたどる「オリエンテーリングマップ」を説明。「トモ工学園の精神をつなぐトットちゃん広場で子どもたちに笑顔になってほしい」ということばを聞いて、これからともに活動を広げていくのだと心強くなる。



8月8日（月）☁

安曇野ちひろ公園サポート隊、地

域おこし協力隊、松川村職員の方々と公園完成交流会に参加。畑で採れた野菜を使った手づくりピザの味は格別。オープンから2週間あまり、早速「海外からのお客様さまの受け入れを強化したい」という積極的な声もあがり、今後の取り組みに向けて士気を高めた。

8月13日（土）☀

開催中の『B1B50周年・ちひろ美術館コレクション・絵本の歴史をつくった画家たち』展でも出展中のクヴィエタ・パツオウスキーの作品が大好きだというお客さま。洋書の絵本を熱心にご覧になる姿を見て、こうして世界の絵本文化を伝えていくことが、私たちの役目であると改めて実感する。

8月16日（火）☀

暑い日が続く今年の安曇野。電車の図書室は、設置された温度計が

36℃を超えた場合はいったん閉室し、絵本の一部はトモ工の講堂にお引越し。「好きな絵本を選んで持ってこようね」と声をかけ、何冊もお気に入りを抱えた子どもたちといっしょに講堂へ向かう。

8月27日（土）☁

21時まで開館延長の夜のミュージアム。朝から降り続いた雨も夕方には上がり、一安心。「ちょっと怖い絵本」の読み聞かせのあとは、真っ暗なトットちゃん広場を探検。トットちゃんがお財布を落としてしまう話の「肥溜め」では、懐中電灯で照らしながら、恐る恐るなかをのぞく子どもたち。「本当に変な臭いがするぞ！」ということばに大笑い。公園に放たれた鈴虫採りも同時開催され、その美しい鳴き声に、秋の訪れを感じた。



安曇野ちひろ美術館 イベント予定 各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。
 詳細・最新情報はホームページからもご覧いただけます。 <http://www.chihiro.jp/> TEL. 0261-62-0772 FAX 0261-62-0774
 <https://www.facebook.com/chihiro.azumino>

●わたしのトットちゃん ピエゾグラフィ展

今夏開催したトットちゃん広場オープン記念展「みんな、いっしょだよ。」で募集した、これぞ「わたしのトットちゃん」と思う作品のなかから、投票の多かった作品を中心に、ピエゾグラフィにて展示します。ちひろの絵とともに、その絵を選んだ人のことばも紹介。わたしのトットちゃん、あのひとのトットちゃん、みんなのトットちゃん、それぞれお楽しみください。(出展作品数：約30点)
 日 時：10月1日(土)～11月30日(水)
 会 場：多目的ギャラリー



ランドセルをしょって並んで歩く一年生 1966年

●世界のことで楽しむトットちゃん

『窓ぎわのトットちゃん』は、現在世界35カ国以上で翻訳され、読まれています。今回はふたつの言語で、本のなかのエピソードを、その国の方に読んでもらいます。(日本語の解説もあります。)また、トットちゃんのなかに出てくる歌もみんなで一緒に歌いましょう。世界中で愛されるトットちゃんを美しい言語の響きとともに楽しみたい。日 時：10月10日(月・祝) 11:00～12:00
 会 場：多目的ギャラリー
 参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)



●おはなしの会

毎月第2・4土曜日11:00～
 展示や季節にあわせて、絵本の読み聞かせや素話などをおこないます。
 (参加自由、入館料のみ)

●ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日14:00～ちひろ展、14:30～世界の絵本画家展
 展示室で作品を見ながら、担当学芸員が展覧会の見どころなどをお話します。
 (参加自由、入館料のみ)

●開館情報

安曇野ちひろ美術館は、12月1日～2017年2月28日まで冬期休館となります。2017年は3月1日より開館します。

●展示関連イベント

○長新太だらけのおはなしの会 キャベツくんがやってくる!

長新太展に関連して、長さんの絵本を楽しむおはなしの会を行います。特別出演は、あの『キャベツくん』です。キャベツくんとのお記念撮影も予定しています。
 日 時：10月1日(土)、11月5日(土)
 会 場：絵本の部屋
 参加費：無料(入館料のみ)
 申し込み：不要(参加自由)



○パパ's 絵本プロジェクトの絵本ライブ!

現役のパパたちによる絵本読み聞かせユニット「パパ's 絵本プロジェクト」が、安曇野ちひろ美術館にやってきます!長新太『キャベツくん』も特別出演予定です。
 日 時：11月13日(日) 14:30～
 会 場：絵本の部屋
 参加費：無料(入館料のみ)
 定 員：40名(先着順)
 申し込み：要事前予約(ちひろ美術館HP、TEL. 0261-62-0772、美術館受付にて)



2011年ちひろ美術館・東京で開催した様子

●ちひろ美術館に来ましょ! 松川村・お嫁さんデー

この日は、日頃忙しく働く松川村のお嫁さんを、特別に、安曇野ちひろ美術館へご招待します。たまには家事や育児を忘れて、のんびり過ごしてみませんか。トットちゃん広場のオープンでさらに楽しみ方が広がった安曇野ちひろ美術館へ、この機会にぜひお越しください。
 日 時：10月20日(木)
 松川村のお嫁さんは、入館無料と1ドリンクサービス

●安曇野スタイル2016 本のともしだち

「愛書総覧 ちひろの本棚」展に関連して、ミュージアムショップでは「本のともしだち」コーナーを設けます。クラフト作家によるブックカバーやしおり、文庫本サイズのバッグなど、本とともに楽しめるクラフト作品が並びます。
 日 時：11月3日(木・祝)～6日(日)

●館外展紹介

○「ちひろの生まれた家」記念館(福井県・越前市)

2016年春、2階部分が増床され、企画展示室がオープン。より充実した展示ができるようになりました。年4回作品を入れ替えながら展示します。11月28日(月)までは、ピエゾグラフィによる『窓ぎわのトットちゃん』特別企画展Ⅲを開催。12月9日(金)～は、ピエゾグラフィによる『ゆきのひのたんじょうび』展を開催いたします。
 休館日：火曜(祝日の場合は、翌日)休館 ※年末年始の臨時休館あり
<http://chihironoie.jp/>

○福知山市佐藤太清記念美術館(京都府・福知山市)

いわさきちひろ ピエゾグラフィ展～ちひろの愛した子どもたち～
 会 期：9月3日(土)～10月10日(月・祝)
 休館日：火曜日 <http://fukuchiyama-artmuseum.jp/>

CONTENTS <展示紹介> 愛書総覧 ちひろの本棚 / <企画展> 没後10年「長新太の脳内地図」展…②③
 <活動報告> 松川村・安曇野ちひろ公園 オープニングイベント「トットちゃんの夏祭り」 / AFCC(シンガポール) …④
 ちひろを訪ねる旅63 / ひとことふたことみこと / 美術館日記…⑤